

【報告 2】立石（鹿島区上栃窪）のモニタリング結果について**1 立石（鹿島区上栃窪）のモニタリングについて**

市では、これまで生活圏除染や農地除染を実施し、原子力発電所事故からの環境回復を進めてきた。これら以外の場所について、海については、北泉海岸の海開きやサーフィン大会が開催され、また、山については、国見山森林公園も令和6年5月6日に13年ぶりに再開しオープン記念イベントが開催されるなど、生活圏ではない場所についても一定程度、震災前の状況に戻りつつある。

一方、河川敷などは震災前は秋に河川敷で芋煮会を行うなど市民の利用があったが、除染が行われていないことから、放射線量が懸念されるなどの声もある。このことから、令和5年度第1回委員会で、真野川河川敷のモニタリング方法等について委員会で協議をしていただき、モニタリング調査については、令和5年12月8日～20日の期間で実施した。このたび、今年度に調査した結果について報告し、委員会の意見を伺うものである。

2 対象地

立石地区（鹿島区上栃窪地内）

立石は鹿島区中心部より西に15km、鹿島区上栃窪の真野川上流南側にある高さ12mに達する巨大な石柱。近くには立石石灰岩層が広く分布し、この層を地下水が溶かしてできた30あまりの洞窟（立石鍾乳洞）がある。この自然林は、みちのく緑の百景に「真野川溪谷の緑」として指定されている。

3 調査日

令和7年4月17日（木）

4 調査結果について市の見解

空間線量については、資料2-1にあるように、地上高1mの道路部や河川敷において、 $1\mu\text{Sv/h}$ 以上のホットスポットを示す暖色系の場所は見当たらず、立入制限をするような線量ではない。

これらの結果を基に、月に2回、1回あたり5時間をこの河川敷で過ごす場合の年間の追加被ばく線量は、国の定める長期目標の年間追加被ばく線量 1mSv/y 以下の数値と想定される。このことから、立石地区河川敷の利用については水難事故等には十分に注意しながら利用することは可能であり、観光資源としての利活用を検討する材料として、担当課には今回のモニタリングの結果を共有していくこととする。

5 調査報告書

資料2-1：南相馬市鹿島区上栃窪の河川敷における空間線量率測定結果